

「アジア最貧国東ティモールにおけるコーヒー生産支援学校設立プロジェクト」

梅田響子・菅野直和・滝口あき・松本千穂・三宅裕子

東ティモールは、21世紀初の独立国である。しかし現在の東ティモールは、失業率が70%とも80%とも言われている状態で、教育機関においてはまともに授業できるところが30%である。しかもそのほとんどは青空教室状態である。

首都のディリ市内においても停電がたびたび起こり、家庭は井戸水を使用しているほどインフラの整備はできていない。教育を十分に受けていない大人が多いため、職につくこともできない。さらに東ティモールは子供の数も多く、毎日人々は食べていくのがやっとの状態である。

このようなティモールでは、教育普及のような活動よりも即効性のある支援が必要であると考えた。この国で可能なコーヒー産業の質を向上させ、ティモールの人たちが自ら国を富ませる力を得ることがこのプロジェクトの目的である。

まず、このプロジェクトにおける資金3000万円の使用用途から述べていく。必要なものは、コーヒーの苗2000本(1つ40円×2000本)、堆肥(200万円)、焙煎機(2台×7万5000円)、粉砕機(15万円)、選別機(15万円)、皮剥ぎ機(15万円)である。前述の総額268万円を機材費とし、さらに、栽培のための水などの雑費に418万3500円の予算を組む。また、人材としては、有志のボランティア12名、通訳2名、専門家3名、現地住民代表3名、役員10名が必要であり、彼らに支払う人件費として、通訳に2万5000円(1か月)、専門家に2万5000円(1か月)、現地住民代表1万2,000円(1か月)を各人数分支払い、生活費として総額120万4500円を準備する。輸送費には、500万円、家・土地などの買収予算として500万円、日本での活動費として1000万円の予算を組む。

機材費

項目	金額	合計
苗(コーヒー)	8万円	
粉砕機	15万円	23万円
焙煎機	15万円	38万円
選別機	15万円	53万円
皮剥ぎ機	15万円	68万円
堆肥	200万円	168万円

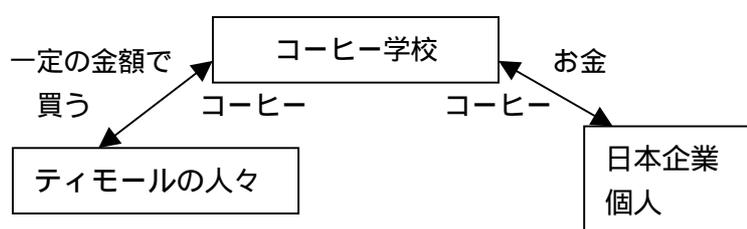
人件費

項目	金額(年額)	合計
ボランティア		
通訳	60万円	
専門家	90万円	150万円
現地代表者	43万2000円	193万2000円
役員		
生活費	120万4500円	313万6500円

活動の内容としては、基本的な考え方としては東ティモールのコーヒー産業の活性化のために、現地に学校を作り、人材育成支援をするというものである。まずは、日本で人材集めを行う。専門家や、役員、ボランティアなど必要とされる人材集めを行う。その際、広告費から予算を使う。その後、現地に飛び下見をする。東ティモールの現状を知るという意味でもこの調査は重要視されなければならない。機材等必要なものは、日本で手配し東ティモールへ送るという方法をとる。品質の良いものを目指す以上、機材もより高品質なものをという考えから、この方法にいたった。学校建設においては、現地の状況を見て判断をする。可能であれば、既存の建物を利用する。現地での、広告活動も必要である。学校への入学者は30名とするため、その30名の確保も必要になってくると考えられる。そのため、現地での広報活動等、可能な限りの宣伝活動を行っていく。全ての準備が整い次第、授業を開始する。授業内容としては、

土地の作り方から、苗の育て方などの、栽培に関する知識や、機械の使い方、コーヒー栽培の指導の仕方まで、あくまでもプロフェッショナルな生産者を育成していく事を目的とする。

授業終了後に、収穫したコーヒーは、東ティモールブランドとして売り出す。その際、日本の企業と提携し、なるべく高く売れるよう手配する。また、支援団体である私たち自身もコーヒーを買い取る。なぜならば、コーヒーがあっても売れる場がないため、安定した市場確保必要であるからである。収入を与えるためにも、間接的な介入が必要なのである。(東ティモールでは、1キロ11円(1000ルピア)でコーヒーが売られているのに対し、日本では2500円で売られているという現状がある。)この、コーヒーの市場確保のためにも、日本における広報活動として、人々に東ティモールコーヒーを知ってもらうために、無料試飲会を開いたり、企業提携のための営業、インターネットによる広報活動が必要とされる。



最後に、将来的な展望を述べたい。東ティモールの主要産業の一つがコーヒーである。我々は、このコーヒー産業をさらに発展させることにより、高い失業率や低所得という実態を少しでも改善できるのではないかと考え、今回の企画に至った。しかし、この企画ではたった30人にコーヒー作りを指導するにすぎない。もちろん我々は、この30人がこの学校を卒業した後、コーヒー作りを行い、それによって収入を得ることを期待している。しかし、我々が彼らに期待していることはそれだけではない。彼らがその技術を地元を持ち帰り、その地域住民にコーヒー作りのノウハウを伝えるという指導者的立場として活躍してくれることを期待している。例えば、この学校の卒業生が中心となり、数世帯が協同して土地を出し合ったり、あるいは土地や苗を購入したりすることにより大々的にコーヒー作りができるのではないかと。個人では購入できない機械なども何世帯もが協力し合うことにより手に入れることができるようになるだろう。そしてさらに、人々の努力で上質のコーヒーを作ることにより、東ティモールのコーヒーがブランド力を持つようになれば、コーヒーの取引の値段も上がり、人々の収入も増えてくるだろう。